

王子予備校

英語特別講座 御案内

テーマ：「^{ほう}法」と「^{じょどうし}助動詞」

(参加費無料)

〒114-0021 東京都北区岸町1-3-4

TEL. 03-3906-9611

「法」と「助動詞」

英語学習に出てくる「法」とはいったい何のことでしょうか？
高校生の皆さんや、熱心に英語学習を進めている中学生の皆さんは、
「仮定法」ということばを聞いたことがあるかもしれません。例えば、

If I were a bird, I could fly to you.

もしも私が鳥だったら、あなたのところへ飛んで行けるのに。

のような英文をどこかで見たことがありますか？

しかし、この英文を見て、「I」が主語のときの‘be’動詞の過去は‘was’と習ったのに、
‘were’を使うなんて変だな」と感じなかったでしょうか？
まわりの人にその理由を聞いても、はっきりとした答えは返ってきません。
参考書を読んでみても、よく分からないことが書いてあります。

そのうちに、

「‘if’ はもしも、という意味だから、「仮定」の話だ。だから、「仮定法」というのは、「仮定
の文を作る方法」のことだ、
などと自分を納得させてしまっていないか？

これは、中学校で習った、

If it rains tomorrow, I will stay at home.

もしも明日雨が降ったら、私は家にいます。

のような文とは何が違^{ちが}うのでしょうか？

「明日」は未来なのに、「it rains」の部分には「未来」の「助動詞」‘will’が使われていない、‘will stay’の部分には‘will’が使われている... 参考書を見ると

「時・条件をあらわす副詞節中では、未来のことをあらわすのにも現在形を用いる」などと書いてあるので、仕方なく丸暗記する、「副詞節」というのが何なのかもよく分からないまま...

このようなことを繰り返しているうちに、

英語が嫌いになったり、

「英語は暗記だ」と開き直ったりしてはいませんか？

また、「ネイティブ」の先生が書いた「英会話」の本などを見ると、

I hope you find a job. と、**I hope you will find a job.** はニュアンスが違^{ちが}う、

などと書いてあります。何が、どのように違^{ちが}うのでしょうか？

王子予備校では、これらの難しいとされている箇所を、

正しい方法で丁寧に説明して、英語学習から丸暗記を無くしていきます。

英語をすっきりと、暗記に頼らずに身につけたい皆さん、

「英語は暗記科目だから苦手」と思い込まされてしまった皆さん、

王子予備校のこの特別講座で、分からない部分を無くして、今後の英語学習にはずみをつけましょう。

皆様の積極的な御参加をお待ちしています。